平成３０年度

さくらがわ地域医療センター

事業実績報告書

平成３０年１０月１日～平成３１年３月３１日

令和元年６月

医療法人隆仁会

目 次

１　総括 1
２　診療実績 2
３　人員体制 4
４　救急診療体制 5
５　地域医療機関との連携・支援、地域医療の質向上のための取組 6
６　健康診断・人間ドック等の実施 8
７　各種委員会 9
８　施設管理 10
９　その他 11
１０　収支実績 13

1　総括

平成３０年１０月１日に筑西・桜川地域の長年の課題を解決すべく、筑西市に茨城県西部メディカルセンター、桜川市にさくらがわ地域医療センターが茨城県地域医療再生計画に基づき誕生しました。さくらがわ地域医療センターは医療法人隆仁会（旧山王病院）の職員を原資とした、指定管理者制度での運営とし、茨城県西部メディカルセンターは公立２病院（旧筑西市民病院、旧県西総合病院）の職員を原資として独立行政法人での運営でスタートを切りました。今後は、地域間での課題・役割を認識し、さらなる病病連携を進めて参ります。

開設初年度である平成３０年度は、指定管理者制度の最大の特徴である機動性を活用し、柔軟な組織体制の構築、効率かつ円滑な診療体制づくり、経営の健全化に取り組みました。

診療面では、開院前の採用計画・人員配置計画に基づいた招聘活動に取り組み、開院当初より予定人員を確保することができ、多くの医師・看護師をはじめとした従事者の確保ができました。そのため、外来・入院ともに初年度目標値を上回る多くの患者様の受入を行うことができました。

経営面では、これまで行ってきた民間ノウハウを継承し、初年度より黒字化は達成できなかったものの、事業収支計画を大きく上回る実績を残すことができました。次年度は、初年度実績を基に事業収支計画を見直すとともに、更なる経営の健全化に努めます。

医療サービスについては、接遇や診療等に対する改善要望の声が多くかったため、次年度早急な改善に向け取り組みます。具体的な方策としては、患者満足度調査の実施、講師を招いた院内での接遇研修の実施、接遇や診療に関する外部研修へ参加、市内各団体等への病院説明会の実施を予定しており、病院全体でホスピタリティの向上に取り組みます。いただいた意見や要望等は、病院全体で情報共有し、より一層の業務改善及び医療サービスの向上に努めます。

次年度以降は、茨城県が策定する地域医療構想や新公立病院改革プランに準じた計画をスタートします。さくらがわ地域医療センターが地域で果たすべき役割をしっかりと認識し、市民の皆様の信頼に応える病院として更なる質の向上に取り組みます。また、全職員が今般の「Plan（計画）」を理解し、「Do（実行）」、「Check（評価）」、「Action（改善）」を行い、円滑な病院運営と経営改善に取り組みます。

2　診療実績

（1）外来診療実績

長年にわたり診療を行ってきた県西総合病院の廃院に伴い、受診される市民の皆様に不利益のないよう当初の基本計画通り、身近な医療の提供に努めました。予約なしの受診や要望のお声のあった専門外来（乳腺外来等）の開設に取り組みました。また、血液検査も当日結果がでるなど、早期診断の充実に努めました。小児科については、平日受付時間を 17 時までとし、土曜日午前も診療日とし、受診し易い環境提供に努めました。

ア　外来患者数

項目	延患者数	1日平均患者数
内科	10,775	74.3
外科	3,067	21.2
整形外科	8,830	60.9
小児科	3,569	24.6
眼科	1,708	11.8
耳鼻咽喉科	889	6.1
泌尿器科	743	5.1
皮膚科	931	6.4
婦人科	423	2.9
計	30,935	213.3

イ　外来診療体制

（ア）開院時　【H30.10.1】

	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
整形外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
小児科	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
眼科	○	○	○	○			○	○	○	○	○	
耳鼻咽喉科				○							○	
泌尿器科					○						○	
皮膚科	○										○	
婦人科									○	○		

（イ）期末　【H31.3.31】

	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
整形外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
小児科	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
眼科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
耳鼻咽喉科				○							○	
泌尿器科					○						○	
皮膚科	○										○	
婦人科									○	○		

（２）入院診療実績

近隣の医療機関及び施設等（特別養護老人ホーム、老人保健施設等）との連携により入院の受け入れを積極的に行いました。その他、骨折等の緊急搬送受け入れや、術後のリハビリや退院支援を行い、早期での在宅復帰に努めました。また、茨城県西部メディカルセンターの後方支援病院として回復期及び慢性期患者の受け入れに努めました。

ア　診療科別入院患者数

項目	延患者数	1日平均患者数
内科	10,967	60.3
外科	2,986	16.4
整形外科	2,367	13.0
小児科	0	0
眼科	0	0
耳鼻咽喉科	0	0
泌尿器科	0	0
皮膚科	0	0
婦人科	0	0
計	16,320	89.7

イ　病床別入院患者数

項目		延患者数	1日平均患者数	病床利用率
一般病床（80床）		8,838	48.6	60.7%
	一般（70床）	7,712	42.4	60.6%
	包括ケア（10床）	1,126	6.2	61.9%
療養病床（48床）		7,482	41.1	85.6%
計		16,320	89.7	70.1%

（3）手術実績

初年度は、外科及び整形外科を中心とした手術を行いました。外科系では、内視鏡的結腸ポリープ切除術を始め、腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下幽門部胃切除術、腹腔鏡下結腸切除術、腹腔鏡下虫垂切除術等の腹腔鏡下での手術が増加し、患者様の入院日数や身体負担への軽減ができました。また、整形外科系では、外傷手術（骨折観血的手術等）の他、脊椎疾患、膝関節疾患等の変性疾患へ対応した手術を行いました。白内障を中心とした眼科については次年度 4 月から開始いたします。

診療科	入院	外来
内科	8	24
外科	98	46
整形外科	94	138
耳鼻咽喉科	0	8
眼科	0	22
皮膚科	1	5
婦人科	0	5
計	201	248

3　人員体制

開院前の採用計画・人員配置計画に基づいた招聘活動に取り組み、開院当初より予定人員を確保することができ、多くの医師・看護師をはじめとした従事者の確保ができました

（1）　医師数　　＊期末　【H31.3.31】

診療科	常勤	非常勤
内科	3	10
外科	2	2
整形外科	3	1
小児科	2	2
眼科	0	6
耳鼻咽喉科	0	2
泌尿器科	0	3
皮膚科	0	2
婦人科	0	2
その他	0	4
計	10	34

（2）　看護職員数　　＊期末　【H31.3.31】

診療科	常勤	非常勤
看護師	43	8
准看護師	20	6
計	63	14

（3） 人員数推移

職　種	2018年10月1日（開院時）				2019年3月31日				（参考）2019年4月1日			
	職員数			常勤換算	職員数			常勤換算	職員数			常勤換算
	常勤	非常勤	計		常勤	非常勤	計		常勤	非常勤	計	
医師	10	35	45	14.3	10	34	44	14.7	11	33	44	15.9
看護師	41	8	49	45.7	43	8	51	47.7	51	6	57	55.7
准看護師	20	4	24	21.8	20	6	26	23.6	19	7	26	22.6
看護助手（MA）	1	3	4	2.5	1	3	4	2.7	1	3	4	2.7
介護福祉士	4	1	5	4.3	4	1	5	4.3	4	1	5	4.3
介護士	9	2	11	10.2	8	2	10	9.2	9	3	12	10.2
管理栄養士	3	0	3	3.0	3	0	3	3.0	3	0	3	3.0
放射線技師	7	0	7	7.0	7	0	7	7.0	7	0	7	7.0
社会福祉士	2	0	2	2.0	2	0	2	2.0	2	0	2	2.0
理学療法士	6	0	6	6.0	6	0	6	6.0	6	0	6	6.0
臨床検査技師	5	0	5	5.0	5	0	5	5.0	5	0	5	5.0
視能訓練士	3	0	3	3.0	4	0	4	4.0	4	0	4	4.0
薬剤師	3	0	3	3.0	4	0	4	4.0	4	0	4	4.0
調剤事務	0	1	1	1.0	1	0	1	1.0	1	0	1	1.0
事務（管理部門）	4	0	4	4.0	3	0	3	3.0	3	0	3	3.0
事務（医事/医師事務部門）	18	5	23	21.2	18	8	26	23.6	18	9	27	24.0
事務（健診部門）	0	3	3	2.0	0	3	3	2.1	1	3	4	3.1
調理師	2	1	3	3.0	2	1	3	3.0	2	1	3	3.0
調理補助	1	5	6	4.4	1	5	6	5.2	1	5	6	5.2
環境整備	0	8	8	6.1	0	7	7	5.3	0	7	7	5.3
保育士	1	4	5	2.6	1	3	4	2.2	2	3	5	3.2
守衛	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
用務（送迎係）	0	5	5	3.0	0	4	4	1.0	0	4	4	1.0
用務（施設管理）	0	1	1	1.0	0	1	1	3.0	0	1	1	3.0
合計	140	86	226	176.1	143	86	229	182.6	154	86	240	194.2

4　救急診療体制

（1） 救急受入状況

今般の再編計画に基づき、さくらがわ地域医療センターでは１次救急（初期救急）を中心とした軽症、中等症患者を中心とした救急受入を行いました。次年度は、2019 年 10 月より新しく施行される救急告示病院の算定要件である 300 件／年を達成できる様、さらなる受け入れ体制の構築に努めます。

ア　救急対応件数

区分＼月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日当り
救急搬送							24	31	35	31	22	36	179	1.0
軽症							7	13	10	15	10	15	70	0.4
中等症							17	16	20	14	11	20	98	0.5
重症							0	1	2	1	1	1	6	0.0
死亡							0	1	3	1	0	0	5	0.0
その他							0	0	0	0	0	0	0	0.0
来院							104	122	168	478	219	152	1,243	6.8
軽症							95	110	134	441	198	126	1,104	6.0
中等症							7	12	15	13	16	10	73	0.4
重症							0	0	0	1	1	0	2	0.0
死亡							0	0	0	0	0	1	1	0.0
その他							2	0	19	23	4	15	63	0.4
計							128	153	203	509	241	188	1,422	7.8
1日当り							4.1	5.1	6.5	16.4	8.6	6.1	7.8	

イ　救急医療への対応

看護部救急チームを中心に１次救命がいつ、どこでも、誰でも行えるよう、あらゆる場面を想定し心肺停止時などの緊急シミュレーションを実施しました。また、看護職員が積極的に訓練に参加し、伝達講習も行い、医療従事者が心肺停止時などの緊急事態に迅速かつ的確に救命処置が行えるよう、各部署に参加を呼びかけ実施訓練を行いました。

＊心肺蘇生等の救急訓練実施回数

看護職員対象	25回
多職種合同	2回

５　地域医療機関との連携・支援、地域医療の質向上のための取組

（１）　地域医療機関との連携

地域医療連携室にて市内外の医療機関や介護施設等からの紹介受診・入院調整を行いました。クリニック・介護施設等からの主な相談は、精査治療・入院加療が中心で、病院からの相談は外来受診目的の依頼が中心でした。

円滑な連携体制構築のため、茨城県西部メディカルセンター、筑波メディカルセンター病院、協和中央病院、上の原病院等の医療機関との情報共有を行い、筑波大学附属病院、茨城県立中央病院、茨城県西部メディカルセンターで開催された地域医療連携懇親会に参加し、顔の見える関係づくりに努めました。

ア　紹介された主な医療機関と人数

医療機関名	人数	医療機関名	人数
県西総合病院	1114	獨協医科大学病院	9
筑西市民病院	47	筑波大学附属病院	8
茨城県西部メディカル	52	上の原病院	6
茨城県立中央病院	20	協和中央病院	5
自治医科大学附属病院	12	開業医・クリニック等	233
		合計	1,506

イ　アのうち転入院した人数

医療機関名	人数	医療機関名	人数
県西総合病院	4	開業医・クリニック等	68
茨城県西部メディカル	8		
茨城県立中央病院	17		
自治医科大学附属病院	3		
筑波大学附属病院	1		
		合計	101

ウ　紹介した主な医療機関と人数

医療機関名	人数	医療機関名	人数
茨城県西部メディカル	84	筑波メディカル	15
茨城県立中央病院	70	協和中央病院	12
自治医科大学附属病院	27	芳賀赤十字病院	5
茨城県立こども病院	17	獨協医科大学病院	4
筑波大学附属病院	18	開業医・クリニック等	151
		合計	403

（2）　西部メディカルセンターとの医療連携

当院から紹介した医療機関で、紹介・相談件数が最も多かったのは茨城県西部メディカルセンターでした。形成外科や神経内科、呼吸器内科など、当院にない診療科への紹介受診・外来予約調整を行いました。

平成 31 年 3 月 28 日に茨城県西部メディカルセンターで開催された「茨城県西部の地域医療連携懇親会」に参加し、顔の見える関係づくりに努めました。その他、両病院の病院長、事務長、筑西市・桜川市職員等による意見交換会を実施し、両病院の情報共有を行うとともに、今後の筑西・桜川地域の医療について意見交換等を実施致しました。また、次年度は管理者、実務者それぞれに分けた会議を設置し、２病院のより円滑な病病連携に努めます。

紹介患者数	52 件
逆紹介患者数	84 件

（2）　地域医療の質向上のための取組

近隣の医療機関を中心とした多職種合同での研修会の実施や真壁医師会を通じて定期的な意見交換や医療センターの状況報告を行いました。また、ＭＲＩ、ＣＴ等の高度医療機器の共同利用制度を構築し、市内外の診療所等からの検査依頼に対応致しました。

ア　研修会・講演会等

○桜川在宅介護推進協議会　多職種研修会

主催：桜川市高齢福祉課

参加人数：96 名

○真壁医師会桜川支部定例会

2018 年度　計 5 回開催

イ　共同利用実績

ＭＲＩ	215 件
ＣＴ	20 件

（3）　学生等受入

医療を担う人材育成へ貢献致しました。引き続き、近隣の学校等の学生の継続的な受入に努めます。

ア　職場体験、病院見学実績

茨城県立医療大学　学生病院見学

＊看護学科、放射線学科、理学療法学科　計 21 名

（4）　訪問看護事業の実施

訪問看護ステーションでは、開設前より、県西総合病院訪問看護ステーションの利用者への方へサービス提供が従来通り提供できること等、利用者への周知を行い、長年にわたりサービスを提供していた県西総合病院訪問看護ステーションからの円滑な引継ぎに努めました。今後の高齢社会による需要増に対応できるよう、引き続き提供体制の在り方と円滑な運営に努めます。

項目	延利用者数	※１日平均患者数
訪問看護利用者	834	4.6

※　延利用者数／182 日

６　健康診断・人間ドック等の実施

市が実施する検診業務（人間ドック、特定検診、骨粗鬆症健診）の受託、事業所の各種健康診断、家族の特定検診及び近隣中小企業の法定検診を含めた生活習慣予防健康診断を実施し、希望の方には、オプションとしてがん検診（肺がん、胃がん、大腸がん等）を実施しました。次年度４月より健診の常勤の医師も配置し、より一層予防医学に取り組みます。

項目	人数
定期検診	233
協会けんぽ	245
特定健診	11
人間ドック（日帰り）	25
骨粗鬆症健診	21
特殊健診（塵肺、特定化学）	29
その他（オプション）	4
職員健診	178
計	746

7　各種委員会

（1）　医療安全委員会と医療安全体制について

医療安全管理室を中心に、安全管理者による医療安全全般に関わる医療安全推進委員会を週1回開催し、当院の様々な安全に関わる事項の検討、インシデントアクシデントレポート、苦情報告書を共有し対応策を検討しました。また、日本医療安全機能評価機構などから送付される医療安全情報の共有を図り、事例の分析や当院での対応策などの検討も行いました。安全に関わる内容は、月１回の医療安全管理委員会で報告し、検討内容や分析結果、及び再発防止策の妥当性を検討、委員間の共有を図り委員より各職員への周知し、全職員の安全に対する意識向上と啓発活動に努めました。インシデントアクシデントに関しては、リスクマネジメント委員会を毎月１回開催し、各部署におけるレポート内容の共有・再発防止策を検討する医療安全カンファレンス（月２回）の内容を確認し、検討内容の妥当性を審議し、各部署への共有を図るとともに、医療安全管理室及び委員会へ報告し再発防止に努めました。

ア　委員会の開催

医療安全管理委員会開催回数	6 回
医療安全推進委員会開催回数	22 回

イ　アクシデント・インシデント報告件数

アクシデント報告件数	0 件
インシデント報告件数	200 件

（2）　院内感染対策委員会

院内感染防止のため、毎月１回以上の委員会を開催致しました。院内感染対策委員会の下部組織である院内感染リンクスタッフ委員会においては、ICT ラウンドの内容を報告し、各部門において共有を図り全職員への周知に努めました。また、各部署における院内感染に関わる、問題点、改善事項などを検討し感染防止に努めました。その他、院内感染対策委員会の部会として、感染制御チーム（ICT）を設置し、週１回感染環境ラウンドを行い、各部門での感染防止対策の状況を把握し、指導を行いました。

ア　委員会の開催

院内感染対策委員会開催回数	6 回

イ　研修会等の開催

〇感染対策の現状を踏まえた院内ラウンド

講師：協和中央病院　感染対策室　感染管理者　森田和明氏

対象：ICT・感染対策リンクスタッフ

8　施設管理

（1）　施設等の保守・点検（医療機器含む）

公立病院の指定管理者として、施設等の保守・点検（医療機器含む）に関する法令やその他の基準等に沿った方法によって保守・点検を行いました。

ア　建物及び建物付属設備の主な保守点検項目

高圧電気及び自家発電設備、消防設備及び防火対象物設備、医療ガス供給設備
浄化槽設備、昇降設備、自動ドア設備 等

イ　医療機器等

Ｘ線撮影機器、磁気共鳴撮影機器（ＭＲＩ）臨床検査機器
内視鏡機器（胃・大腸・膀胱）、超音波診断装置 等

（2）　施設等の修繕・改良等

ア　病院施設

患者及び職員の動線が交錯するため、眼科外来診察室5と診察室6及び眼科検査室の壁を一部撤去し通用口を設けたことにより、患者の待ち時間短縮及び診察の効率性が向上致しました。

イ　医療機器その他

医療機器等については、当初の整備計画に基づき新規購入の機器が大半であり、また、指定管理者より提供した経年が浅い機器（旧山王病院からの移設医療機器）にて対応したため、故障や整備不良はありませんでした。

９　その他

（１）　市民への情報公開や病院運営に関する市民参加の推進について

診療に関する情報については院内掲示やホームページ等で情報提供を行い、病院見学の引き受けや訪問での説明会を実施し、医療センターの今後の役割や取り組みについての周知致しました。また、桜川市内でのイベント等へも積極的に参加し、市民の皆様と職員が触れ合える取り組みに努めました。

医療について医療サービスのご意見やご要望を頂くために、院内各階に「ご意見箱」を設置し、サービスへのご意見や要望を院内にて共有し取り組みました。市民参加の推進として、市民ボランティア等の受入れが達成できなかったため、次年度にて、院内での外来案内やセンター敷地の環境美化等への参加の推進に努めます。

ア　情報発信方法

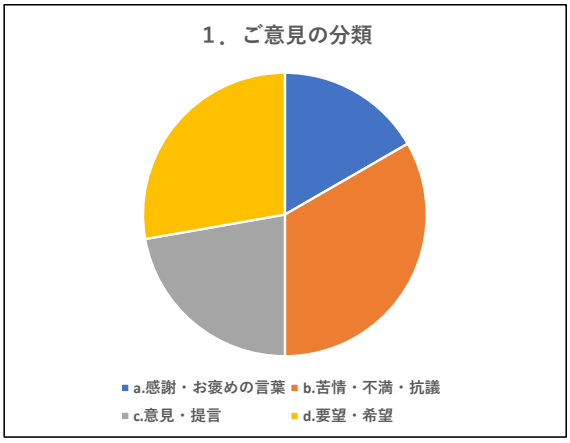
ホームページ、院内掲示、病院見学の実施

各団体等への訪問説明会、市のイベントへの参加

イ　ご意見箱の内容・件数

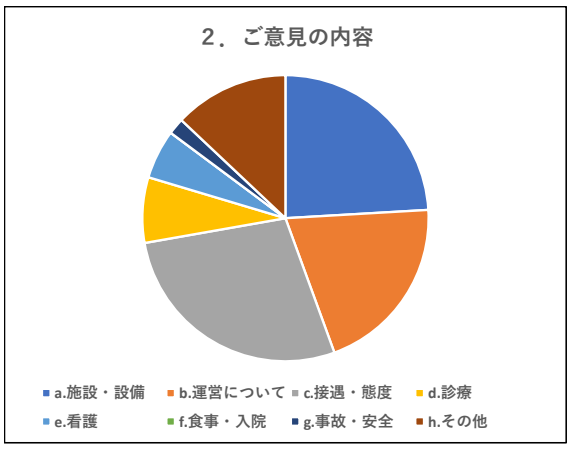
１）ご意見の分類

内容	件数
a. 感謝・お褒めの言葉	9
b. 苦情・不満・抗議	18
c. 意見・提言	12
d. 要望・希望	15
計	54



２）ご意見の内容

内容	件数
a. 施設・設備	13
b. 運営について	11
c. 接遇・態度	15
d. 診療	4
e. 看護	3
f. 食事・入院	0
g. 事故・安全	1
h. その他	7
計	54



（2）　患者及び来院者へのサービス提供

開院前より市民の皆様より多くのご意見を頂いた中で、ご自宅から病院までの交通手段が困難とのお声を多数いただいたため、送迎車両を４台整備し、無料送迎サービスの提供を実施いたしました。

ア　無料送迎利用件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日当り
						364	546	630	593	699	764	3,596	24.8

※迎え、送り、それぞれ1件とした合算件数

（3）　教育体制の充実

看護部教育委員会を中心に、項目ごとに担当者を決め定期的な勉強会を行い、看護職員向けの研修を開催しています。研修システム e-learning を導入し、3 年目に入り自主的な個人視聴から推奨項目に加え、ラダー別の必修を設けての運用を検討し職員の質の向上に努めています。職員全体としては、講演や集合研修には、外部講師の招聘を行い、専門的な知識を学ぶとともに、グループワークを取り入れることによりより深い知識の習得に努めました。

（4）　質の高い看護師の養成

看護師の研修に関しましては、自らの学ぶ姿勢を最優先させ、看護協会主催の研修や管理者研修、臨床指導者養成研修等の参加、また他院・他施設への研修など看護師の育成に力を入れました。また、外部講師、認定看護師を講師として、看護の質を高めるための専門領域の勉強会を開催しました。その他、様々な連携会議に積極的に参加し、地域の医療機関との円滑な連携を図りました。

１０　収支実績

科目	金額（円）	対収益比（%）
入院収益課税	5,130,697	0.7
入院収益非課税	3,921,289	0.5
室料差額収益	8,448,300	1.1
窓口自費収入	4,805,259	0.6
保健予防活動収益	23,078,148	3.2
受検査施設収益	2,000,279	0.2
社会保険収入	121,216,459	16.9
国民保険収入	117,865,010	16.4
自賠責保険収入	8,995,592	1.2
労災保険収入	5,780,546	0.8
後期高齢者医療	411,818,350	57.5
その他医業収入	2,974,127	0.4
医業収益　計	716,034,056	100.0
医師給	158,563,939	22.1
常勤医師	99,090,788	13.8
非常勤医師	59,473,151	8.3
看護師給	161,157,548	22.5
技術員給	64,760,633	9.0
事務員給	49,316,747	6.8
労務員給	21,123,736	2.9
退職金	0	0.0
法定福利費	49,214,245	6.8
給与費計	504,136,848	70.4
医薬品費	61,212,360	8.5
医療消耗器具備品費	85,122,316	11.8
給食用材料費	10,177,984	1.4
期末材料棚卸高	11,306,925	1.5
材料費計	145,205,735	20.2
検査委託費	9,491,938	1.3
寝具委託費	15,310	0.0
保守委託費	13,608,986	1.9
委託管理費	23,910,778	3.3
委託費計	47,027,012	6.5
減価償却費	29,242,958	4.0
器機賃借料	4,969,422	0.6
修繕費	1,765,904	0.2
車両関係費	1,578,908	0.2
燃料費	4,998,487	0.6
設備関係費	42,555,679	5.9
研修費	757,588	0.1
研究研修費	757,588	0.1
福利厚生費	7,811,448	1.0
旅費交通費	13,916,883	1.9
職員被服費	1,512,649	0.2
通信費	3,249,682	0.4
広告宣伝費	2,001,564	0.2
消耗品費	12,349,360	1.7
消耗器具備品費	3,487,918	0.4
会議費	148,852	0.0
水道光熱費	33,870,509	4.7
保険料	4,602,070	0.6
交際費	148,225	0.0
諸会費	984,100	0.1
租税公課	504,850	0.0
新聞図書費	225,046	0.0
衛生管理費	5,459,827	0.7
雑費	194,048	0.0
消費税等	5,224,700	0.7
経費	95,691,731	13.3
医業費用　計	835,374,593	116.6
医業利益	△ 119,340,537	
受取利息	1,822	
指定管理料収入	67,844,000	
雑収入	15,652,884	
医業外収益　計	83,498,706	
支払利息	1,958,666	
雑損失	175,577	
医業外費用　計	2,134,243	
医業外利益	81,364,463	
固定資産除却損	1	
臨時費用	1	
特別損失	1	
税引前当期純利益	△ 37,976,075	
法人税等負担額	1,376	
税引前当期純利益	△ 37,977,451	